

つむぐ会だより

令和6年度第4回介護と医療をつむぐ会
令和7年2月17日(月)
開 催 報 告

No.29 令和7年6月発行 ●発行/流山市 ●編集/介護支援課

在宅療養高齢者の救急要請

～急変時における医療・介護・消防（救急）の円滑な連携とは～本人の意向に沿う支援の場面に焦点を当てて

令和7年2月17日(月) 初石公民館にて第4回介護と医療をつむぐ会を開催し当日は55名の参加がありました。

消防（救急）の方を招き流山市の高齢者の救急要請の実情と本人の意向に沿う支援場面における困難さについて話していただきました。グループワークでは救急隊も参加し他職種の人生会議【ACP】についての考え方・視点を知り、本人の意向に沿うための連携について意見交換をしました。救急隊からは、「人生会議【ACP】について話し合っている場合、その場で、本人、家族の意向が変わることは仕方のないこと。それでも日頃から、備えについて話し合っておくことが大切。救急要請した時は、スムーズな搬送につなげるため、誰もが分かる場所に緊急連絡先、救急情報カード、お薬手帳、保険証等をまとめておいてほしい」との話がありました。



アンケート抜粋

- ・救急隊員の現状の話が聞けて良かった
- ・救急隊員の方と直接話げできたことは貴重な経験
- ・普段話すことのない職種からの知見はとて有意義
- ・人生会議が広まるといいと思った

今回のつむぐ会は

「ICTを活用した多職種連携について」



情報共有システムについて「難しそう」「手続きが面倒」などと敬遠してはいませんか。上手に情報共有システムを活用し、他職種との連携を円滑に行っている事業所に、どのように活用しているのか紹介していただきます。「思ったほど情報共有システムって難しくなさそう。使ってみたいかも」と思えるような会にしたいと考えております。より多くの医療介護関係の皆様のご参加をお待ちしております。

グループワーク意見抜粋

課題1「これまでのあなたの人生会議【ACP】支援の実践について」

良かった点

- ・病院側は万が一の場合の入院体制を整えてくれ、訪問介護、訪問看護などが協力し、亡くなるギリギリまで自宅で過ごすことができた。
- ・初めての訪問時に「どのような最期を迎えたいか」聞くようにしている
- ・看取りの場面を多職種で考え、後悔しないようにケアに努めた

戸惑った点

- ・家族の希望が優先になりがち
- ・人生会議の場を持つことができない。どのようにきっかけを作ればいいのか
- ・家族、医療職、介護職の認識の違い

課題2「急変時の対応を含め、今後の支援で心がけたいこと」

- ・救急情報カードについては、浸透しており活用されている。定期的な見直し、救急隊が見えやすい場所に置くことを心がける。
- ・急変時の対応について担当者会議等で事前に決めておく。
- ・救急要請するかどうか悩む場合は#7119(救急安心電話相談)の活用
- ・訪問看護を利用している場合は、訪問看護にまず連絡するのがよい

グループワークから見えた課題

- ・本人の人生観などを引き出すことは難しい
- ・本人家族は、人生会議【ACP】の話を一度したら終わりと考えており、意向は変わるものであるという認識が不足している。
- ・経過の長い方は、日常会話の中から本人の意向をくみ取ることができるが、末期の方については、時間がないため早く本人の意向を確認する必要がある。



「人生会議＝延命治療」の話ではなく、「よりよく生きるため」の話とイメージを変え、人生会議とは「本人と一緒に悩んで準備すること」「小さく始め回数を重ね信頼関係を築くことが必要である」との意見が出ました。